

令和元年度 部局自己評価報告書 (23：図書館)

Ⅱ 平成30年度の特筆すべき取組／令和元年度の計画

【平成30年度実績】

1. 学術情報整備計画の促進

No.20 ①-2 世界トップレベル研究の推進

No.80 ①-2 学術情報拠点としての図書館機能の活用

実績報告

「東北大学学術情報整備計画」に基づき、本学教員の研究推進に必要な電子ジャーナル・データベース等の整備を行った。各部局の教員で組織する委員会で必要不可欠なジャーナル・データベースを厳選し、契約内容を本学の需要に合わせた結果、電子ジャーナルの年間アクセス数が前年度より30万回以上増加した。

同時に、全学的基盤経費及び部局負担により7億円を超える経費を確保した上で、大手海外出版社と直接価格交渉を行い、提示価格を総額1500万円引き下げることに成功した。こうした取り組みにより、大型パッケージの契約も維持することができた。



2. 教員及び学内関連部署と連携した学習支援の実施

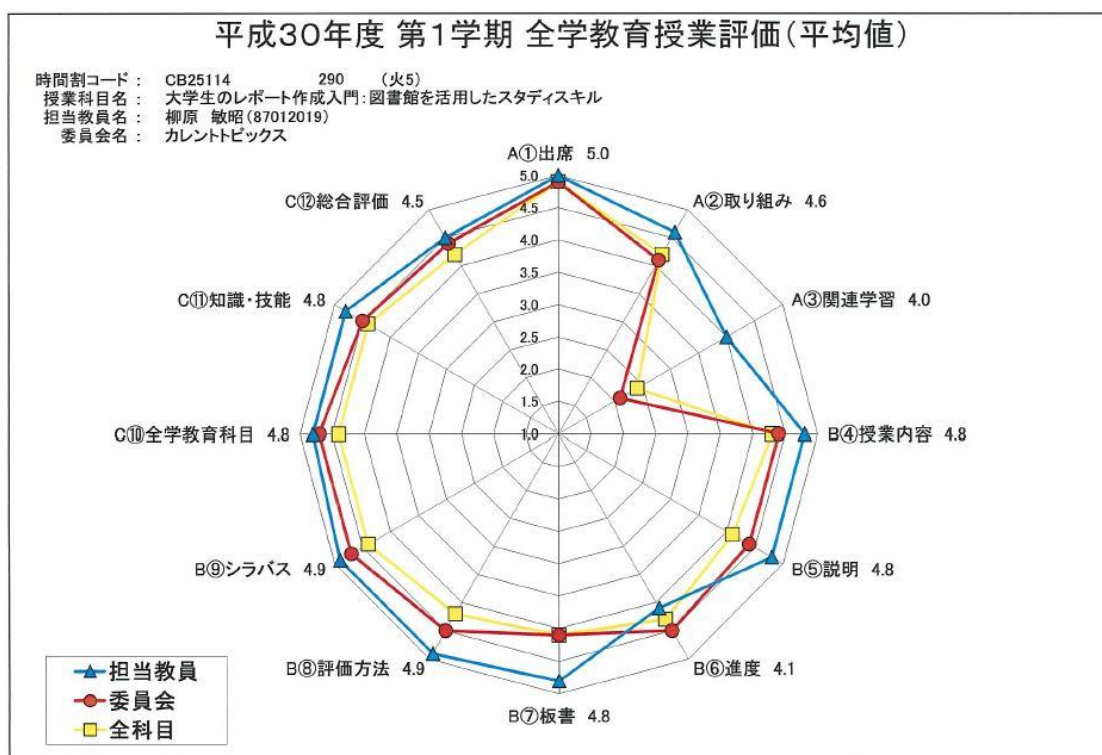
No.01 ①-1 現代的課題に挑戦する基盤となる先端的・創造的な高度教養教育の確立・展開

No.02 ②-1 学部専門教育の充実

No.80 ①-2 学術情報拠点としての図書館機能の活用

実績報告

附属図書館副館長を委員長とする附属図書館学習支援委員会を設置し、教員や学内関連部署との連携により、本学学生の学習支援を推進している。全学教育科目「大学生のレポート作成入門:図書館を活用したスタディスキル」は初年次における、学術情報探索と有機的に結びついたアカデミック・ライティングスキルの習得を目標として開講し、授業評価は全項目において4.0～5.0、総合評価は全科目平均4.25を上回る4.5の高評価となった。



また、附属図書館本館・分館で講習会を90回開催し、主に学部学生を対象に図書館の利用方法や電子ジャーナル・データベース等の活用方法の説明を行い、延べ2,285名が受講した(学部学生10,881名中)。

新入学生を迎えるにあたっては、図書館の利用に関する情報を盛り込んだ「図書館スターターパック」を約3,000部作成し、教育・学生支援部の協力を得て全員(留学生を含む)に配付した。



 1-1_レポート作成入門_木這子.pdf,  授業評価.JPG,  スターターパック.jpg

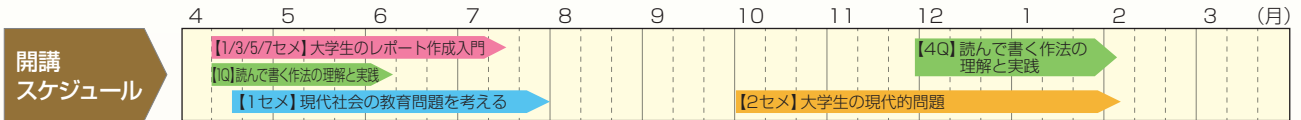
WELCOME

新入生必見！図書館を使った全学教育授業ガイド —レポート作成法と図書館活用法を学ぼう—

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。今はこれから始まる大学生活への夢と期待で胸を膨らませていることでしょう。一方、大学での学習に不安を感じている方も多いのではないのでしょうか。

大学生になると、自分の考察や意見をまとめたレポートを書くことが多くなります。ただ自分の私見を述べるのではなく、様々な文献を読み、論拠を示しながら訴える必要があるのです。そのためには図書館を使って文献を集めることが必要です。

ここで紹介する科目ではこの両方を学ぶことができます。ぜひ受講してください。



年間通して、レポートの書き方と図書館活用法を学ぶチャンスがあります。レファレンスデスクでもサポートします。

カレントピックス：「大学生のレポート作成入門：図書館を活用したスタディスキル」 初回4/10

曜日・講時 第1/3/5/7セメスター、火曜5限 担当教員 附属図書館副館長ほか 対象学部 全学部

4/10(火) 16:20に
いよいよ開講!!!

この授業では、大学生に求められる「学術的」なレポートの作成法や、それに欠かせない情報収集の方法の基礎と図書館活用法、そしてプレゼンテーションの技法を学ぶことができます。更に、担当する4名の先生方が、あなたのレポートを2回添削するという他の授業にはない特徴があります。この授業を受講すれば、確実に長く役立つスキルを身につけることができますよ。

※第15週以降の試験やレポート提出はありません。最終日には優秀レポートの紹介、先生方からの講演など様々なお楽しみが！

昨年度の受講生からの声

- ・レポートを書く上で必要な視点を教えてもらい、役に立った。
- ・4人の教員がそれぞれの観点から評価してくれ、その評価を踏まえて発表やレポートの仕上げをできたのが特によかった。
- ・図書館ウェブサイトや、データベースの使い方を詳しく調べ、この授業以外でも役立った。
- ・序論の書き方など、今まで重要視してこなかったところの大切さを知ることができてよかった。

◇この講義のおすすめポイント！

あなたのレポートを先生方が、それぞれの観点で2回コメントします！



研究目的の意義は？
本論に説得力は？

ベストセラーレポート本の著者
酒井聡樹
生命科学研究所准教授



先行研究押さえた？
論旨に一貫性は？

人文社会科学のオールラウンダー
山田仁史
文学研究科准教授



読んでわくわくする、興味を引く？

NATURE等大手雑誌に論文多数
渡辺正夫
生命科学研究所准教授



引用は適切？
指定書式で書いた？

大学教育研究の専門家
申本剛
高度教養教育・学生支援機構准教授

基幹科目：言語表現の世界 初回4/10

「展開ゼミ：読んで書く作法の理解と実践」

曜日・講時 第1クォーター(週2)、火曜/木曜1限
第4クォーター(週2)、月曜4限/水曜1限

担当教員 申本剛
高度教養教育・学生支援機構准教授



対象学部 1Q…医保歯薬工
4Q…文系 理農

大学の授業で課されるレポートを大別すると、「～とは何か?」「なぜ～なのか?」「～をどうすべきか?」の3つに絞られます。この類型を知っていることが質の高いレポートを書くことにつながります。この授業では、同じテーマで上記3タイプのレポートを書き、短期集中でレポートの類型を学びます。図書館で行う回では、レポートを書くのに欠かせない、資料の探し方や配架場所を、東北一の所蔵数を誇る当館の中を回りながら覚えることができます。また、授業内で「書庫ガイドダンス」も受講できるので効率的です。

◇この講義のおすすめポイント！

どの学部でも役立つ！3タイプのレポートの書き方を学べます。

基礎ゼミ： 初回4/16

「現代社会の教育問題を考える」

曜日・講時 第1セメスター、
月曜3・4限(隔週)

担当教員 佐藤智子
高度教養教育・学生支援機構准教授
頼 羽廷
高度教養教育・学生支援機構助教



対象学部 全学部

この授業のテーマは、現代社会の教育問題についての理解と考察を深めることです。グループワークでメンバーと共に課題を設定し、解決のための調査、課題に対する自分の主張をまとめます。図書館では、論文データベースの使い方や図書館活用法を学び、様々な文献を集めます。これらの過程を経て、最終的に自分の意見をまとめてレポートを書きます。

◇この講義のおすすめポイント！

課題解決のプロセスを経験し、研究の作法と大学での学びを体験できます！

基幹科目：人間と文化 初回10/1

「大学生の現代的問題」

曜日・講時 第2セメスター、
月曜4限

担当教員 岡田有司
高度教養教育・学生支援機構准教授



対象学部 文系 理農

この授業では、現代の大学生が直面する身近な問題を扱います。前半後半で2つのテーマを取り上げ、それぞれグループディスカッションを経て、レポートにまとめ発表します。受講生間でピアレビューを行うことにより、根拠に基づき意見を主張したり、筋道を立てて考えをまとめる力を身につけます。

図書館では、雑誌論文や新聞記事、統計など、時事的な情報の入手方法を中心に学びます。

◇この講義のおすすめポイント！

大学生にとって身近な問題について、最新の文献情報を集める力を身につけ考えを深めることができます！

3. 図書館の自主財源確保の推進

No.61 ③-1 安定した自己財政基盤の確立

No.66 ①-2 基金の充実

No.80 ①-2 学術情報拠点としての図書館機能の活用

実績報告

他の国立大学図書館で類を見ない事業として、図書館蔵書をモチーフにしたオリジナルグッズを販売し、約 20 万円の収益を得て図書館事業に活用した。



また、公益財団法人朝日新聞財団からの助成金 30 万円を得て、漱石文庫や『資本論』（初版本）などの古典資料の修復を行うことができ、この成果について「平成 30 年度修復資料公開展示」を開催した（平成 31 年 2 月）。

さらに、平成 31 年 3 月 1 日に東北大学特定基金「図書館のみらい基金」を設置し、年度末までの 1 か月間で約 40 万円の寄附があった。

 [修復資料公開展示.JPG](#),  [基金.JPG](#),  [グッズ販売.JPG](#),  [グッズ例.jpg](#)



『資本論』



『The Century Dictionary』



朝日新聞文化財団助成



平成 30 年度 修復資料公開展示



東北大学附属図書館の貴重図書の中から、修復した資料を公開展示します。今年は朝日新聞文化財団による助成を受け、漱石文庫『The Century Dictionary』（4冊）と、マルクス著『資本論』の初版（1冊）を修復することができました。

日時：2019年2月13日（水）～2月20日（水）
10：00～17：00

会場：東北大学附属図書館 1F 多目的室

お問合せ：貴重書係 022-795-5939

無料

H30実績(6 / 17)





東北大学附属図書館

図書館
の
みらい
基金

東北大学特定基金へのご協力をお願い

TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

H30実績(7 / 17)

漱石文庫グッズ

夏目漱石が愛蔵した約3,000冊の蔵書は、現在「漱石文庫」として東北大学附属図書館に収められています。漱石の旧蔵書のほぼ全てを伝えるとともに、漱石の日記や原稿、絵画、さらには学生時代の試験答案や英作文、教師時代の英語試験問題など実に多彩な資料を含んでいます。

[>>夏目漱石ライブラリへ](#)



漱石絵葉書セット（8枚組）

夏目漱石の原稿、絵画などを題材にした滋味深い8枚組絵葉書セット。

上段左より、「『道草』草稿」、「学生時代のノート」、「正岡子規『七草集』漱石評」、「自筆絵画「月と芒」「草花」、下段左より、「土井晩翠宛て自画像入り絵葉書」、「『吾輩八猫デアル』上巻序文原稿」、「子規点漱石句稿」、「漢詩ノート」、絵葉書畳紙（初版単行本『こゝろ』表紙）。

500円



※画像をクリックしてサンプルを表示



漱石直筆絵画ファイル（全2種類）

夏目漱石の直筆絵画「草花」と「草花のスケッチ」を題材にしたA4サイズのクリアファイル。

左、水彩画「草花」。右、「草花のスケッチ」。

各250円



※画像をクリックしてサンプルを表示



漱石一筆箋（全2種類）

夏目漱石の蔵書印と漱石自筆の水彩画「月と芒」を題材にした一筆箋。

左、漱石自筆の水彩画一筆箋。右、漱石の蔵書印一筆箋。

各400円



4. SNS を活用した国内外への図書館広報の活性化

No.17 ①-1 学生募集力の向上

No.41 ①-2 国際発信力の強化

No.43 ②-1 外国人留学生の戦略的受入れと修学環境の整備

No.70 ①-1 情報の受け手に応じた効果的な情報発信の展開

No.80 ①-2 学術情報拠点としての図書館機能の活用

実績報告

本学学生を中心とした附属図書館利用者や国内外の関係機関に対して、図書館サービスや事業について周知するために、SNS を活用して広報を活性化させた。

Twitter(アカウント:@hagi_no_suke)は平成30年度末時点で9,600件ツイートしており、フォロワー数は6,000名を超えて国内の国公立大学図書館では4位(Twitter開設136館中)となった。

平成30年11月に開設したInstagram(アカウント:tohoku_univ_lib)はフォロワー数が2か月後の12月末には100名、5か月後の3月末には200名を超え、国内の国公立大学図書館では3位(Instagram開設21館中)となった。



また、大学院等の留学生を雇用し活動を行っている留学生コンシェルジュも、SNS で留学生向けに図書館を活用した学習・研究に関する情報発信に努め、外国人留学生の修学環境の整備に貢献した。Facebook(アカウント: tohokuunivlib)は 500 名以上がフォローしており、また、図書館(本館・分館)を紹介するプロモーションビデオを作成し、YouTube で 8,000 回以上視聴された。



 [Twitter.jpeg](#),  [Instagram.jpeg](#),  [留学生 Facebook.JPG](#),  [SNS.jpg](#)

5. 図書系職員の人材育成・高度化

No.59 ②-2 大学の教育研究活動及び経営を担う人材の確保・育成

No.80 ①-2 学術情報拠点としての図書館機能の活用






実績報告

本学図書系職員及び東北地区内大学図書館の人材育成を目的とした研修会を企画し、2回開催した。特に「東北地区西洋古典資料保存講習会」(平成30年11月16日、於 東北大学附属図書館)は、一橋大学社会科学古典資料センター・附属図書館との共催によるもので、東北地区大学図書館協議会加盟63館から43名が受講した。

また、本学図書系職員が「東北大学附属図書館調査研究室年報」第6号(平成31年3月刊行)に6件、学外の雑誌に1件、学外のウェブサイトにも2件、論文や記事を執筆し公表した。

さらに、本学図書系職員が国際会議で1件、国内の学外会議で2件、本学の図書館事業等に関する講演・報告を行った。

これらの取り組みにより、本学の図書館事業を国内外へ周知するだけでなく、職員の人材育成・高度化に資することができた。

 [4-1_講習会_木這子.pdf](#),  [4-2_講習会_文教ニュース.pdf](#),  [4-3_附属図書館調査研究室年報目次.pdf](#),  [4-4_PRRLAプログラム\(抜粋\).pdf](#),  [4-5_PRRLA_文教ニュース.pdf](#)

日本心理学会大会でヴント文庫と古典機器を展示

9月25日(火)～27日(木)に附属図書館多目的室を会場として、附属図書館が所蔵するヴント文庫と、文学研究科心理学研究室が保管する古典的な心理学実験機器を展示しました。これは仙台で開催された日本心理学会第82回大会の企画として、附属図書館、文学研究科協力のもとに実施されたものです。

ヴィルヘルム・ヴント(Wilhelm Wundt 1832-1920)は実験心理学の父とされ、ヴントがライプツィヒ大学で立ち上げた研究室は世界初の実験心理学の研究室であると言われています。ヴント没後に数千冊の蔵書が売り出され、ライプツィヒ大学や米国のエール



▶古典的心理学実験機器



▶ヴント文庫

大学、ハーバード大学も購入に乗り出していましたが、競合の末、東北帝国大学法文学部創設時(1922年)の心理学研究室初代教授であった千葉胤成が購入しました。購入費用は大学の予算だけではまかなえず、斎藤報恩会による支援を受けています。これが現在のヴント文庫です。今回の展示では購入当時のエピソードも紹介されました。

各種の古典的な心理学実験機器は、法文学部創設時に購入したものをはじめ、実際に実験に使われてきた貴重なもので、来場者はみな熱心に見学されていました。3日間で226名の来場がありました。

東北地区西洋古典資料保存講習会を開催しました。

11月16日(金)、附属図書館を会場に、保存講習会を開催しました。学術資料は、現在に生かすだけでなく、未来にも継承し、未来の研究者にも提供し続けることが求められます。そのためには、電子化をはじめとする代替手段化を進めながら、同時に原資料の保存を強化していく必要があります。

今回の講習会は、講義・実演を通して、図書館職員が原資料の劣化や破損への対策を学び、東北地区の大学図書館間でそのノウハウを共有することを目指すものです。

当日は、まず一橋大学の鈴木宏子学術・図書部長より、本講習会がその一環でもある「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」の概要説明と成果報告がありました。続いて東北大学から事例報告を行いました。



▶当館の破損資料

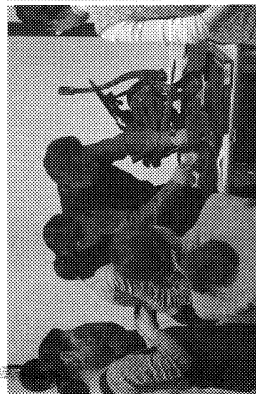
後半は、一橋大学からお招きした講師による講演と実演をいただきました。一橋大学社会科学古典資料センターは、国内有数の西洋古典資料と保存修復工房を有し、この分野で豊富な知識と経験の蓄積があります。毎年全国の図書館から職員を招いた保存講習会を行っており、今回は東北地区を会場にした初めての講演講習会という貴重な機会となりました。

最後は、当館の書庫見学ツアーと、開催中の企画展「西洋古典への扉」のギャラリートークに参加していただくことで、当館の古典資料を通じ、西洋古典資料の実際を目にする機会を設けました。参加者はいずれも興味深く見入っていました。

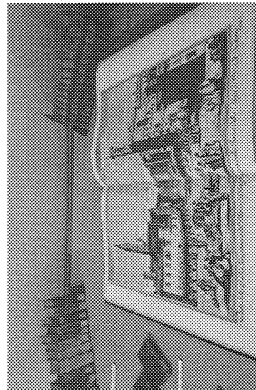
本講習会は、当館と一橋大学附属図書館・同社会科学古典資料センターが主催し、東北地区大学図書館協議会研修部会の協力を得ました。関係者にこの場を借りてお礼申し上げます。



▶熱心に聴講する各大学の参加者



活版印刷機を使用したワークショップは今回が初の試みとなった。会場には「幾何学原論」やホップス「リヴァイアサン」等、15〜18世紀の貴重な西洋古典資料が数多く展示された。また版面のレイアウトの特徴や使われているフォント、



展示された古典資料を学内外に広く公開することを目的として毎年企画展を開催しているが、これまでは江戸文化等の和漢籍をテーマとするものが多く、西洋古典をとりあげるの

東北大学附属図書館

企画展「西洋古典への扉」

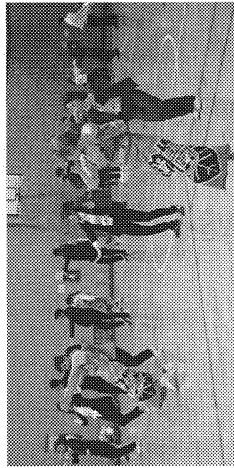
東北大学附属図書館は11月1〜18日、平成30年度企画展「西洋古典への扉―The Door

into Old and Rare Books.」を開催した。

同館では、所蔵する文化的・学術的に価値の高い資料を学内外に広く公開することを目的として毎年企画展を開催している



発表した北東北国立3大学のトビタテ生



大学の国際化を推進

11月に「岩手大学国際月間」実施

岩手大学では毎年秋に学生・教職員及び一般市民等に対し、「岩手大学国際月間」を実施している。2018年は11月を期間に定め、海外派遣プログラムや国際ボランティアに参

加した学生の体験談パネル展示や報告会、協定大学の教員による英語での講演会等、様々なイベントを集中的に開催した。

例年行っている海外体験報告会等のイベントに加え、理工学部を会場として理系学生を対象とした海外体験報告会、北東北国立三大学(秋田大、弘前大、岩手大)のトビタテ!

生を集めて開催したトビタテ!留学JAPAN留学体験報告会等、新しい試みも多数実施した。中でも、外務省が

実施する「日中植林・植樹国際連帯事業」の一環として招へいされる日中大生五百人交流団のうち、雲南省からの訪問団50名を受け入れ、さんさ踊りや宮沢賢治の学び舎であった農業教育資料館(旧盛岡高等農林学校本館)の見学を通して岩手大の学生と交流を行った。

その他、職員を主なターゲットとして、海外研修や出張を体験した職員の海外体験報告会を全て英語により実施。発表者、参加者ともに、英語や国際交流に対する関心の高さが伺えた。

発行年の表記方法等についても解説があった。

11月14日には記念講演会が開催された。同大総合学術博物館の小川知幸助教による講演「活版印刷の発明者・グーテンベルク」では、活版印刷がグーテンベルクによりどのように生み出され、どのように西洋古典に影響を与えたかの解説があった。ハリウココミュニケーションズ(株)の菊地淳氏によるワークショップ「金属活字組版の実際」では、参加者は印刷機を用いて実際に活版印刷を体験した。

東北大、一橋大

西洋古典資料保存講習会

一橋大学附属図書館および社会科学古典資料センターと東北大学附属図書館の共催で11月16日、東北大附属図書館において東北地区西洋古典資料保存講習会が開催された。

社会科学古典資料センターは文科省共通政策課題「文化的・学術的な資料等の保存等」の採択を受けて、平成28〜30年度の3年間で「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」を実施している。その一環として、国内における西洋古典資料保存水準の底上げを目的とした地域講習会を計画しており、今回全国で初の開催となった。

当日は、午前に一橋大からの事業説明、東北大から古典資料管理状況の事例報告、午後には、一橋大から古典資料保存に関する講義、資料保存用のジャケットや保存箱作成等の実演、東北大附属図書館の古典資料書庫および企画展示「西洋古典への扉」の見学があった。

東北大学附属図書館調査研究室年報

第6号

調査研究

ヘルマスペルガー公正証書について —翻訳と解説—

On the Helmasperger Notarial Instrument: Translation and Interpretation

…………… 小川 知幸 1

書画関係資料について —和漢書貴重図書目録の周辺— …………… 大原 理恵 15

狩野文庫目録増補改訂版作成の試み(3) ～和刻本漢籍子部(1)～

…………… 小林真理絵, 小飯塚 猛, 菅原 真紀, 堀川 慎吾 25

市島春城旧蔵『異疾草紙』が東北大学附属図書館医学分館所蔵になるまで

…………… 渡邊 愛子 71

クレオパトラの表象 —その死のパブリック・イメージ— …………… 遠藤 直子 83

活動報告

環太平洋研究図書館連合 (PRRLA : Pacific Rim Research Libraries Alliance)

— 2018年総会参加報告 — …………… 小林 真理絵 91

漱石文庫資料修復事業報告 …………… 菊地 良直, 大原 理恵 99

工学分館設置40周年記念企画実施報告 …………… 横山 美佳, 藤本菜穂子, 永井 伸 109

2019年3月

東北大学附属図書館



PACIFIC RIM RESEARCH
LIBRARIES ALLIANCE

ANNUAL MEETING

UNIVERSITY OF CALIFORNIA, BERKELEY
SEPTEMBER 16-19, 2018

Tuesday, September 18

3-4:30 p.m.

Archives of Dealing with Earthquake

Disasters in Japan: Great East Japan Great Earthquake

Marie Kobayashi TOHOKU UNIVERSITY

This presentation will discuss the collection of earthquake disaster materials—and their digitization—on the Great East Japan Earthquake (hereinafter referred to as “3.11”), which occurred on March 11, 2011. Japan is located in the circum-Pacific orogenic belt, and earthquakes occur frequently. Since the 1990s, collections of materials (e.g., books, journal articles, leaflets, photos, etc.) on earthquake disasters have been started by libraries. Since then, the collection of resources has proven to be very useful. This is why materials on the earthquake disaster were gathered when 3.11 took place and released as digital archives. This presentation will explain in detail the following three points:

1. “Campaign: Donate Earthquake Disaster Materials to the Library”: Miyagi, Iwate, Fukushima prefectures were seriously damaged by 3.11. The university library and the prefectural libraries of these three prefectures cooperated and called for the donation of earthquake materials nationwide. The Tohoku University Library led this campaign. The donated materials that were granted permission are published as digital archives.
2. “Michinoku-Shinrokuden”: Tohoku University gathered disaster information for research. In collaboration with enterprises, Tohoku University made visual representations of the data. Charts, graphs, and even maps of the tsunami trajectory have been visualized and made available to the public.
3. “Hinagiku”: A website for cross-cutting searches of earthquake archives, published in municipalities and libraries in various regions. It is provided by the National Diet Library (NDL). In the website, a preservation project by NDL, earthquake disaster archives are also being collected.



Marie Kobayashi

Librarian,
Tohoku University

Marie Kobayashi is a librarian at Tohoku University. After studying library and information science at the University of Tsukuba, she became a librarian of Tohoku University Library in Sendai. From 2011 to 2014, she was in charge of cataloging and acquiring materials at the Tohoku University Institute for Materials Research Library. In 2015, she moved to the Tohoku University Library system section, where she managed digital archives and library systems and promoted open access. During these periods, she was cooperating with her team to support an information literacy class for students. This year, she also has a class of library science at the Miyagi Gakuin Women's University. Her research field is the cataloging of classical books.

東北図書館 PRRLA総会で「震災ライブラリー」構築を報告



東北大学附属図書館は、平成28年から環太平洋研究図書館連合(PRRLA: Pacific Rim Research Libraries Alliance)に加盟しており、年に一回開催される総会に出席している。昨年、中国の浙江大学で開催された際には同館が所蔵する「和算」に関するデジタルコレクションについて紹介し、これに関する海外での報告は初と高い関心が寄せられた。今年、総会はカリフォルニア大学バークレー校

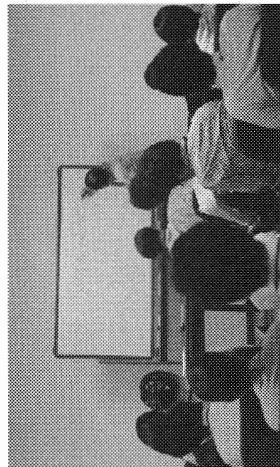
間にわたって開催され、東日本大震災を機に収集を開始した「震災ライブラリー」の取組について同館の小林真理絵係員が英語でプレゼンテーションを行った。今回は米国のほか、中国、韓国、シンガポール、ニュージーランド等から35大学が参加したが、多くの環太平洋の地域では日本と同様に地震による被災の経験があることから、収集した資料の整理方法や利用状況、国内の、ほかのアーカイブとの連携など多くの質問が寄せられた。

参加者との質疑応答に対応する小林係員

「アメリカ文学2000年の魅力」 北大附属 柴田元幸トークライブ

北海道大学附属図書館は9月14日、図書館大会議室を会場に、アメリカ文学研究家、翻訳家として著名な柴田元幸東京大学名誉教授によるイベントを開催した。「柴田元幸トークライブ「アメリカ文学2000年の魅力」」と題したこの企画は、北海道ブックフェスティバル委員会と共催(協力:河出書房新社)し、トークライブのほか、柴田氏の著作物の販売や購入者向けのサイン会も行われた。

同大の学生、教職員のほか、一般市民も含め74名の参加があり、会場は満員となった。トークライブでは、アメリカ文学の魅力について、J・D・サリンジャーの「The Catcher in the Rye」とマーク・トウェインの「Adventures of Huckleberry Finn」との比較やアメリカ文学における「私」の在り方という観点から、アメリカ文学史上著名な作



品を例に解説が行われた。イベント後のアンケートには「アメリカの目己、文学、社会の関係を分かりやすく整理してもらえた」「英米文学の水面下もののがわかりやすく説明されていた」といったコメントが寄せられた。

「弘前大学」

「地域創生本部」看板掲式

弘前大学は10月1日、「地域創生本部」設置に伴う看板掲式を同大事務局3階において挙行了。地域創生本部は、学長を本部長とし、各理事、各学部長・研究科長等で組織され、地域活性化の中核的拠点としての機能の充実・強化に向けて、地域の特性を活かした地域活性化施策を大学一体となって総合的かつ計画的に推進することを目的として、10月1日に設置された。

看板掲式には、本部長である佐藤学長、副本部長の石川社会連携担当理事のほか、吉澤企画担当理事、渡邊総務担当理事、伊藤教育担当理事、郡研究担当理事、森副理事等が出席。佐藤学長と石川理事による看板の掲式が行われた後、佐藤学長から「地域創生本部は、地域連携の窓口機能をしつかり發揮していくことが求められている。地域連携を大学全体で把握し推進していくことが重要」との挨拶があった。なお、看板の書は、佐藤学長が地域創生にかける思いを込め揮毫した。



看板を掲げる佐藤学長(左)と石川社会連携担当理事